

起業の支援は、大阪市内にある IT 企業 2 社 [㈱アーティフィス、アプリル㈱] の熱心な無償の協力のもとに推進されています³。アーティフィスは、取締役副社長が毎月 1 週間から 10 日にわたり現地に滞在し、総合サポート、企画立案指導および経営ノウハウのコンサルティングを行ってきました。また、アプリルは、独自の e-ラーニング教材を提供するばかりでなく、代表取締役自らの Skype による頻繁な遠隔地指導と複数回の現地訪問指導を行ってきました。これら 2 企業の被災地支援にける熱意が、今回の具体的な成果を生んでいます。関西大学は、これらの企業活動全般を機材などの面を含めて支援し、また、町と協力して訓練環境・起業環境の整備を行い、プロジェクト全体のプロデュースを担当してきました。

本年 4 月 1 日までの SHIP の展開（確定分）は以下のようです。

- ・ 2011 年 7 月 関西大学「東日本大震災からの復興に関する研究」助成をうけた研究がスタート
- ・ 2011 年 12 月 日本建築学会住宅計画小委員会の視察に関西大学から 2 名参加し、大槌町等へ訪問
- ・ 2012 年 2 月 アーティフィスとの共同での被災地支援連携活動の合意
- ・ 2012 年 3 月 アプリルの参画の決定
- ・ 2012 年 3~6 月 支援対象地域の選定
- ・ 2012 年 7 月 10 日 大槌町と関西大学の復興を中心として連携協定の締結
- ・ 2012 年 8 月 17 日 雇用の受け皿となる企業（KAI-OTSUCHI）を町内で登記
- ・ 2012 年 8 月 19 日 大槌町における SHIP・IT 研修スタート
- ・ 2013 年 1 月 21 日 App Store にて電子書籍絵本『インディアンの森』無料リリース
- ・ 2013 年 2 月 1 日 研修生 1 名（U ターン男性）の常勤雇用の実現（就業先：KSI-OTSUCHI）
- ・ 2013 年 4 月 1 日 研修生 1 名（U ターン女性）の常勤雇用の実現（就業先：KSI-OTSUCHI）

1-3 SHIP・IT 訓練

SHIP の IT 訓練は、大槌町と連携してスタートしました。在住者男性 3 名、U ターン男性 1 名、U ターン予定女性 1 名の計 5 名に加え、サポーターとしての町職員 1 名（時間外の参加）と NPO からさらにサポーターとして 1 名が参加してくれました（就業支援対象は 5 名）。平日の 18 時あるいは 19 時から 21 時まで、公民館の開いている一室を大学との連携協定にもとづいて町からお借りし、訓練を続けてきました。それぞれの参加者の現職の都合などもあり参加が難しい時期もありましたが、参加者の熱意と町職員のサポートをうけて、電子書籍が完成しました。

いずれの参加者も、iPhone、iPad、iPad mini で動くアプリケーション制作は初めての体験であり、Mac に触るのがはじめての方がほとんどという状況でしたが、意欲の高さで困難をのりきり、受講生の約半数が予定以上の速さで学習をすすめてくれました。

【2.SHIP 研修の成果：電子書籍】

SHIP・IT 研修生たちによるオリジナルな作品が右の電子書籍になります。

この絵本は、本としてすでに書点などで販売されているものですが、原作者の [] さんが SHIP に賛同くださり、作家の [] さん、出版社の亥辰舎に許可をとってくだ



³ ㈱アーティフィスは、大阪府大阪市都島区に位置する AR（拡張現実）開発や iPhone・Android アプリ開発などを行う、高度な独自技術をもつ IT 企業です。アプリル㈱は大阪市中央区に位置する iPhone・Android アプリの開発教育などを行う IT 教育企業で、すぐれた e-ラーニング教材を開発しています。どちらも CSR の一環として本プロジェクトに無償で協力してくださっており、SHIP の中心メンバーともなっています。

さることで電子書籍化が実現しました。IT 企業ばかりでなく、こうした作家、画家の方々や出版社の理解があっはじめて SHIP は成果をだすことができている。

この電子書籍は、App Store で 1 月 21 日にリリースされており、iPad などをお持ちの方は無料でダウンロードして利用することができます。研修生たちのさまざまな工夫がこらされた、読み聞かせのある絵本になっており、原作の持ち味をそこなわずに電子書籍の長所を生かすよう配慮した作品となっています。

【3.SHIP 研修の成果：就業】

この電子書籍の製作過程を吟味し、就業に値する人材となっているかどうかの判断を慎重に行った結果、2 名の研修生の常勤での就業が実現しました。1 名は U ターンの 30 代前半の男性で研修のリーダーをとめてくれました。この方は 2 月 1 日からの就業となっています。もう 1 名は U ターン希望で現在は盛岡で就業なさっている女性の方で、4 月 1 日からの就業となっています。この方は、電子書籍のプログラミングを根気よく行い、画像の処理などをリードしてくださった方です。e-ラーニングを一人離れた地で受けるという異例の受講になり、メンバーとのやりとりは大槌への訪問時のやり取りに加えて、Skype を併用するといったものでしたが、最後まで頑張りとおしてくれました。

また、3 名の受講生については、多忙な仕事の合間をぬって引き続き参加して下さっており、25 年度も研修を続けてくださる方向で準備しています。

町役場から参加してくれたサポーターの方も高い技能を身につけており、今後の研修を率いる重要なメンバーに育っています。

【4.SHIP の今後の展開】

SHIP は二つの展開を考えて準備しています。一つは、いままでと同じく町と大学の連携にもとづく IT 教育支援で、有業の方を対象にするものです。この訓練では、一期生として訓練をサポートして下さった町職員の方のボランティア支援が期待されており、これまで以上の効率を期待しています。

もう一つは、4 月には 2 名の常勤職を抱える KAI-OTSUCHI が、無職の方を対象に、非常勤雇用と訓練を同時に実現するよう、町の支援をえて事業を展開するものです。これに関しては、現在、町と連絡をとりながら、本年 5 月から 11 ヶ月間、5 名程度の規模で実現するべく準備をすすめています。

【5.最後に】

SHIP の中長期の目標は、若者の雇用を核とする地域の復興と発展にあります。いずれ大槌ばかりでなく、沿岸部が IT のニアショア拠点として発展することを期待しながら、これからも関西大学は活動を続けていきます。また、小中高生たちへの課外教育の支援なども検討を始めています。

これからも、皆様の一層の支援を賜れば幸いです。

以上